



課題をもとにグループで話し合う

課題

- ① 前回の研修内容をクラスで共有するとともに、自分のクラスの環境の課題を話し合う。
- ② 子どもの興味・発達に応じて環境を改善する。
- ③ 改善した環境の週案や月案、写真を持ち寄って保育環境、子どもの姿、保育者の援助等について伝え合う。

室内だけでは狭かったので、廊下にも遊びのスペースを広げて体を動かして遊べるようにしました。

絵本のコーナーの位置を変えて、ベンチを置いてくつろげるようにしました。近くに製作コーナーも作り、絵本から着想を得て作る姿もありました。

課題をもとにグループでポスターを作る

グループで共有した「気づき」から、共通することや重要だと感じたことをグループテーマとして一つ掲げる。グループテーマからメンバーの実践を見直し、保育環境（写真を用いて）と子どもの姿等の関わりについて模造紙に表現する。



※保育内容・5領域（3つの視点）、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿などを参考にする。

10の姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

【0歳児ポスター例】

何を楽しんでいるのか？を書けると良い。
言語化→計画になる。

くぐる
長さ・高さ・暗さ
子どもによって好きなタイプはそれぞれ
一人一人が楽しめる環境

のぼる・かくれる
高さ、長さ、広さを一人一人に合わせた環境づくり

心地よい
安心できる場所があることで、好きな遊びを楽しめる

ゆらゆら・ぐらぐら
揺れる感覚、足の裏で感じるものバランスを取りながら遊ぶ
「できるかな?」「できた!」「もっとやりたい」が楽しめる環境

**みんなが楽しい
みんなが気持ちいい**

触って楽しい
指先だけでなく、指先から全身を使った運動につながる環境

0歳児でも仲間を意識しているのが伝わる。一緒にいて心地いい、楽しいという気持ちに共感していく。

物との関わりは、感覚、音や形、手触り等、どこをねらって環境を作っているのか整理する。

ポスター共有を通じて気付いたこと

子どもの遊んでいる姿を想定して環境を設定しても、思った通りに行かなかったり、違う遊び方になったりすることも多い。今の子どもの姿を大切に、臨機応変に対応する大切さを感じた。

運動あそびとなると、動きだけで捉えがちだが、他者との関わりや意欲といった多様な視点で活動を捉え、計画に落とし込むことが大切。トンネルを用意するだけでなく、「トンネルの先で保育者が微笑んで待つ」など、環境設定や配慮を工夫して子どもの「やりたい」「またやってみよう」を引き出す。保育者間でねらいや子どもの姿を共有し、次への意欲につながる意図的な関わりを大切にしていきたい。

講師より

【1・2歳児ポスター例】

どこまで柔軟に考えて環境を作っていくかがポイント。そこに専門性が必要になってくる。挑戦したい気持ちを支えていく。

ポスター共有を通じて気付いたこと

「やってみよう」と思える環境設定とは

行動からくみとる

8月涼しい日、園庭で滑り台に夢中！
高いところに登りたかったね…
→室内に設定しました



友達がやっている姿を見て、やりたいと思う

届かなかった石に手が届き、足も地上から離れると、自然に「できた!」という思いが意欲を増していった



遊びが続く

投げることに興味があり、自分たちで新聞紙ボールを作って遊ぶ
→箱めがけて投げる
→ボールを蹴ってサッカーに

できそうでできない

「もう少しで届きそう…」
「入った!」「届いた!」
「今度は下から入れてみよう」



子どもの遊びの変化に気付くことが大切。置き方、置く場所によっても子どもの遊び・興味は変わってくる。

一本橋を設定したら、面白がって、歩く・またぐ等子どもが自分で考えて色々な動きに広がっていった。一本橋がおままごと遊びにもなっていて、ねらいと意図しないことに発展していく面白さを感じた。

環境にどう働きかけるかは、子どもに選択権がある。保育者の計画・ねらいは大事だが、そこに捕らわれず、柔軟な捉え方をする。計画をもとに環境を作っても何かが違う、ということはある。今の子どもの姿、興味を理解した上で、子どもに合わせた環境に変更していき、次の計画に活かしていきましょう。

講師より

【3・4・5歳児ポスター例】

体を動かす経験は保育者や友達に思いを伝えたり、友達とルールを共有したりなどの資質・能力を育むことにもつながる。

ポスター共有を通じて気付いたこと

遊び方は子ども次第!

道具を子どもが出し入れしやすいように設定
子ども自身で並べて遊びを作る(くぐったりまたいだり等)

大人がルールを押し付けない



子どもの気付きを取り入れながら楽しめる環境作り

子ども達の姿から廊下にも設定してみました

経験したことをもとに遊ぶ

→新聞紙で家を作りたい
→破けてしまう、どうしよう
→ビニールだったら破けない?

氷→色水→泡・スライム

「氷を傘袋に入れてみよう」
「色水を凍らせてみたい!」

一緒に遊ぶ中で、子どもたちが楽しんでいることは何か、を感じとり、「やってみよう」を引き出す遊び環境を作っていく。

子どもの姿からの変化を書いているグループが多かった。計画ありきではなく、子どもの姿をもとに考える大切さを知った。

子どもたちはなにを求めている?どうしたらいい?と考えられることが大切。計画をたてることが正解ではない。子どもの姿と違うと思ったらたてなおす。保育を語ることが保育の気付きにつながり、視点を変えて見るきっかけになる。この積み重ねが次の計画につながっていく。

講師より

※実際のポスターは写真を貼って作成しました。

研修生の報告書より



- 0歳にとって出会う初めての保育者なので、自信を持って「まかせてください!」と言えるようになりたいと思いました。そのためにも子ども達の発達の土台をしっかりと作り、成長を見届けられる保育を目指します。子どもの姿を理解した上での週案、月案作りをしていきたいです。(0歳児)
- つい「安全に」「楽しく」という視点でとどまってしまうことが多いですが、遊びの環境には「子どもが自ら挑戦したくなるような魅力」や「発達に応じて無理なく進める工夫」など、より深い意図を込めることができると実感しました。今後は、子どもたちが安心してながらも意欲的に体を動かし、達成感を味わえるような保育を目指していきたいと思います。(1・2歳児)
- 他の人と語り合うことで、新たな視点がたくさんあるのだと思い、語り合うことを活用していきたいと感じた。計画は計画して終わりではなく、計画をした後の振り返りこそが大切なんだと学び、振り返り、語り合い、その中で気付いたことを次の計画に活かすという流れを改めて意識していこうと思う。(3・4・5歳児)